

会報「技術士しぞーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone : 080-9194-4715 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 : 加藤信之 事務局長 : 松世麻理子 会計 : 小澤 靖 広報 : 須永浩介



撮影 : 須永 浩介

2025年3月9日 静岡県御前崎市 桜ヶ池

目次

◆ 【特集：社会貢献】 理科支援活動報告 本年度の理科支援委員会の活動報告です。	P2
◆ 2024 年度-第 4 回例会(見学会) 報告 株式会社明電舎沼津事業所「GX 特高変電所」技術研修センター Manabi-ya の見学会です。	P4
◆ 2024 年度-第 5 回 CPD 講演会報告 テーマは『身近な「水産資源と土壌微生物」の活用』です。	P6
◆ CPD 例会の実績と今後の予定	P8
◆ テクノロジーカフェの実績と予定	P9
◆ 協賛会員のご紹介	P10

表紙の写真説明

撮影場所：静岡県御前崎市 桜ヶ池（御前崎市佐倉 5162）

撮影者：須永 浩介（2024 年 9 月 16 日）

御前崎遠州灘県立自然公園の第 2 種特別地域にあり、県の自然森百選にも選ばれている「桜ヶ池（さくらがいかいけ）」。約 2 万年前にできた砂丘堰止湖で、広さは約 2 万平方メートルにのぼる。平安時代末期に比叡山の高僧、皇円が苦しむ人々を救済するため当時一番長生きすると信じられた龍に姿をかえ桜ヶ池に鎮まれた。

それ以降、願いを叶えていただける龍神様として広く信仰をあつめている。湖畔にたたずむ社殿は市の有形文化財に指定されていて、社殿の中には徳川慶喜揮毫の扁額が掲げられている。

開運厄除と延命長寿、大魚満足、海上交通の神として知られる。秋の 9 月お彼岸の中日には県指定無形民族文化財である「お櫃（ひつ）おさめ」が行われる。

理科支援活動報告

1. 理科支援とは？

2007 年以来中部本部理科支援小委員会は、小・中学校における理科特別授業を実施してきております。2024 年度までの実績は、愛知、岐阜、三重、静岡 4 県で 450 件余りの授業、登録されている授業の種類は約 70 講座、登録講師数は 50 名ほどの技術士会会員となっております。講師は会員による有志で構成されております。理科支援委員会では広く会員技術士の方々に理科授業の講師の募集をかけております。

さて、授業内容は、学校の理科教科書のカリキュラムなどに沿ってわかりやすい理科実験を中心に、当該授業テーマの原理をていねいに説明することはもとより、この技術の社会での使われ方や技術がどのように私たちの生活を改善しているかといった、「技術士ならでは」の観点を考えて組まれています。

技術士会中部本部は例年 4 月に、提供できる講座一覧（愛知、岐阜、三重、静岡）を各県の教育委員会、政令指定都市教育委員会を通じて学校へ送っていただき、学校側では配布を受けた一覧表の中から選んだ講座の特別授業を技術士会に要請してくる仕組みとなっています。授業の材料や学校までの交通費などの費用については、日本技術士会あるいは山崎自然科学教育振興会のどちらかの団体に申請し、交通費・材料費を含め 2 万円の補助が出ます。また 2024 年度からは、以下の文章にある通り、一部の小学校では授業補助を募集して 2 人体制で実施したところもあります。授業補助を担当された方には、この経験を元に、是非とも今後の正規の授業担当につなげて実施していただければと考えます。

2. 2024 年度の実績（静岡県と愛知県）

静岡県支部の会員が担当した理科特別授業の 2024 年度実績は、県内小学校で 6 校、県外（愛知県）小学校で 3 校の授業を、以下のタイトルと会員により実施していただきました。（敬称略）

県内小学校：（内 細字は授業補助者）

5/23 熱海市立初島小・中学校（安田英人）

「マイクロビット（コンピュータプログラム）を動かしてみよう」

9/19 富士宮市立上野小学校（秋山尚之・萩原利行）

「土地のつくりと変化（地層と防災）」

9/27 長泉町立北小学校

（北本達治・小松加奈・田中寛）

「二酸化炭素・ドライアイスを使った実験で化学を楽しもう」

10/16 裾野市立南小学校（深澤陽子・秋山尚之）

「土地のつくりと変化（地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり）」

11/18 焼津市立東益津小学校（深澤陽子・卯川裕一）

「土地のつくりと変化（地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり）」

11/19 伊豆市立修善寺東小学校（岡井政彦・小松加奈）

「エコキャンドルをつくってみよう」

県外小学校：

7/12 豊明市立館小（安田英人・野々部顕治）

「プログラミング的思考を学ぼう」

10/4 田原市立高松小学校（野々部顕治・岡井政彦）

「太陽と地球と月の関係（月の満ち欠け、月食）」

12/3 知多市立つじが丘小学校（野々部顕治・岡井政彦）

「太陽と地球と月の関係（月の満ち欠け、月食）」

3. 理科授業風景から

楽しい授業風景を学校で撮っていただいたいくつかの写真で紹介します。

熱海市立初島小・中学校

「マイクロビット（コンピュータプログラム）を動かしてみよう」

実施後の学校の先生からの報告では、プログラミングが、実生活の中でどのように利用されているのか、具体的な事例（スマホ重力センサーなど）を話してくれたため、児童も教員も意欲的に活動に取り組めた。また専門的な指導を受けられる貴重な機会がもて、普段学べないことを学ぶよさを実感できた。... などと、学校からは好印象の言葉をいただきました。

熱海港から海を越えての遠方での学校訪問でしたが、担当していただいた安田さん、ありがとうございました。



マイクロビットを動かしてみよう

富士宮市立上野小学校

「土地のつくりと変化（地層と防災）」

学校カリキュラムにおける「わくわく授業」の時間を用いて、「土地のつくりと変化 住んでいる町の地形と地質」について授業を実施しました。

1時限は、地質の成因や変化について、ペットボトルなどを用いて、地層の堆積構造の話をしました。2時限は、学校側から要望のあった「災害」に関することについて、実験を用いて説明を行いました。

富士宮は、富士山の南麓斜面に広がる街であるため、富士山の溶岩流、火砕サージや泥流、岩屑なだれなどの火山に関係する災害が発生する危険性が高い地域である点に着目し、土砂が一気に流れ下るさまを、土石流実験装置を用いて火山と水がもたらす土砂災害（火山災害）を説明しました。



「れき・砂・泥」の標本づくり



土石流実験の様子
 溪流に見立てた雨どいに砂利を敷き詰め、水量を変化させると土砂の移動が始まるさまを実験する。
 また、下流に砂防堰堤に見立てた堰を設けた場合には土砂の移動を抑制できることを実験で示した(水量の変化は児童にも行ってもらった)。

土石流実験

焼津市立東益津小学校

「れき・砂・泥」の標本づくり」

6年生は2学期に「土地のつくりと変化」を学びます。これに合わせ、地層を構成する「れき・砂・泥」を理解する内容としました。

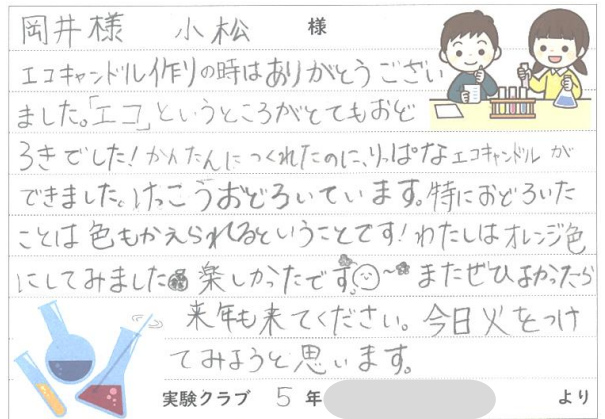
1. 河川の運搬作用・堆積作用の説明。
2. 砂が有する性質の一つである地震時の液化化現象の実験を児童とともにやり、そのしくみと対策を説明
3. 地層を構成する「れき・砂・泥」の標本を児童に作らせ、色や形を確認させる。

焼津市立東益津小学校では、6年生のクラス3組で実施しました。

伊豆市立修善寺東小学校

「エコキャンドルをつくってみよう」

学校の理科クラブのこどもたち11人を対象に、天ぷら油廃油でキャンドルをつくってみました。11人のこどもたち、校長先生からお礼の手紙と感想文をいただきました。このような反応をいただくと、来年も行ってみようかなという気にもなります。



伊豆市立修善寺東小学校
 校長 加藤 有紀子

クラブ講師のお礼

吹く風も一段と寒い今日このごろですが、講師の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本校のクラブ活動におきましては、ご指導いただき有意義な活動を実施することができました。お忙しい折にもかかわらず快くお引き受けくださり、ご指導いただいたことに厚くお礼を申し上げます。また、実施に際しては、事前のご準備をいただいたり、当日は子どもたちへのお心遣いをいただいたりと誠に感謝の念にたえません。

(理科支援委員会 岡井政彦 記)

第4回例会（見学会）報告／(株)明電舎 沼津事業所

2024年11月06日(水)に第4回例会として会員18名が参加して株式会社明電舎 沼津事業所様の見学会を開催しました。

同社は、電力や鉄道、水処理施設向けインフラ関連電気設備、及び電気自動車用モーター／インバーターなど、国内外で幅広く事業を展開しています。沼津事業所は、同社の国内生産拠点の中でも最大の事業所になります。

見学会に先立ち「明電舎技術士会」の紹介をいただきました。同会は2014年5月に企業内技術士の資質向上と技術士の受験支援を目的に設立されました。現在では会員56名(正会員27名、準会員14名、OB会員15名)でCPD勉強会や電気メーカー技術士会交流会、受験者支援講座開設など企業内外で積極的に活動しているとのことでした。

その後、沼津事業所内の「GX 特高変電所」と「技術研修センター Manabi-ya」を見学しました。

◇ GX 特高変電所 (GX : Green Transformation)

2021年に竣工した沼津事業所の66kV受電設備であると同時に、自社の環境配慮型製品、及びICT技術を活用した点検省力化・スマート診断の常設展示の役目を果たしています。



(写真:GX 特高変電所)

GX 特高変電所は高い信頼性を確保するため、冗長性を高め二重系で構成されています。実際に使用している主な環境配慮型の製品は、次表のような製品です。

(1) キュービクル形ドライエアー絶縁開閉装置 (Eco C-GIS)

電流遮断部は真空遮断器 VCB を実装、キュービクル部は低圧ドライエアー絶縁との組合せによる高い絶縁性を活かして「脱 SF6 ガス」を実現。
※SF6 はこれまで多く使用されてきた絶縁ガスで、絶縁性に優れるが地球温暖化係数が非常に高く、地球温暖化防止の観点では使用しないことが望ましいとされている。

(2) エステル油入変圧器 (Eco 変圧器)

絶縁油に植物由来の菜種油や大豆油、パームヤシ脂肪酸エステルを採用(脱鉱油)した循環型社会の高効率変圧器。

(3) 塗装・溶接レス形配電盤 (Eco 配電盤)

環境に配慮した配電盤製作に取り組み、盤枠に高耐食溶融めつき鋼板を使用した塗装レス配電盤を一部に採用。塗装工程で発生する CO2 排出削減及び揮発性有機化合物 VOC などの有害物質の放出を抑制する。

一方、ICT 技術を活用した点検省力化・スマート診断は、ICT 技術により特高変電設備の信頼性をさらに向上させるとともに、設備保全業務の省力化を支援しています。各種センサーやカメラを用いた自動計測により点検項目数を削減し、点検時間の短縮、効率化が図れるとしています。特にアナログ計器をわざわざカメラで撮った映像から画像処理を行って数値を読み取るなど、既存の設備に後付けでスマート診断が行えるよう工夫されていることに関心を深めました。

◇ 技術研修センター Manabi-ya (学び舎)

技術者の早期育成を目的とした技術教育専用施設で、XR を活用した安全・技術の体験学習や教育専用の実機を用いた体験型メンテナンス技術教育を行っています。(XR : 仮想現実 VR、拡張現実 AR、複合現実 MR 等の仮想や空間技術を利用した情報処理の総称)



(出典:明電舎プレスリリース)

(写真:技術研修センター Manabi-ya)

今回の見学では、①メタバースを利用した非常用発電機 ZX シリーズの起動方法の教育、②VR 安全体感装置を利用した安全教育、③非常用発電機 ZX シリーズの実機を利用した起動の実習を体験しました。

①各見学者は VR ゴーグルを装着し、仮想空間で自分のアバターを使って、非常用発電機 ZX シリーズの起動方法について学び、他者とコミュニケーションを取りながら、手順を踏んでバーチャルの非常用発電機を起動する体験をしました。



(写真:メタバースによる教育の様子)

②VR 安全体感装置では、VR ゴーグルを装着した見学者が仮想の建設現場にて不安全行動から事故に遭う体験をします。これは実際には体験できない危険事象をバーチャルに体得し、危険に対する感受性を高めることを狙いとしています。



(写真:VR 安全体感の様子)

③メタバースで学習した非常用発電機 ZX シリーズの起動方法を、実機を用いて実際に起動を行い、バーチャル教育の実効性を体感しました。その他にも原動機や制御盤など様々な実機を用いた現場教育を展開し、ものづくり力の強化につなげているとのことでした。

今回の見学会では、特に XR による安全・技術教育を実際に体験してみてその有効性については目を見張るものがあり、XR 技術の重要性を改めて認識することができました。



(写真:見学者集合)

今後も最新技術が体験できる見学会を企画していきたいと考えています。皆さまの奮ってのご参加をお願いいたします。

大変お忙し中今回の見学会にご協力いただいた明電舎沼津事業所の方々に心より御礼申し上げます。

(土井俊幸 記)

2024年12月7日第5回例会報告

1. 概要

日時：2024年12月7日（土）13:20~16:40

会場：静岡県男女協働参画センター
「あざれあ」501会議室

参加者：会場20名 遠隔（web）10名

テーマ：身近な「水産資源と土壤微生物」の活用

・講演1 「浜名湖の漁業・養殖業の概要と
その研究」

講師：静岡県水産・海洋技術研究所

浜名湖分場/研究科長 鈴木朋和 氏

・講演2 「土に棲む微生物の世界と食糧生産・
気候変動」

（私たちの暮らしを支える土壤微生物のお話）

講師：静岡理工科大学理工学部

物質生命科学科/教授 齋藤明広 氏

2. 講演内容

講演1：「浜名湖の漁業・

養殖業の概要とその研究」

講師：静岡県水産・海洋技術研究所 鈴木朋和 氏



鈴木講師は、静岡県水産・海洋技術研究所に入所以来、焼津の本所や下田の伊豆分場においてシラスやサクラエビ、イセエビの資源生態などを研究され、現在は浜名湖分場において遠州灘で採取されるトラフグを研究するとともに、研究科長としてアサリ、クルマエビ、水質、プランクトンや浜松の水産業の主流を成すウナギの種苗生産などの研究にも関わっている。本日は水産に関わる貴重なお話を伺ったので報告する。

浜名湖は、本湖と細江湖、猪鼻湖、松見が浦、庄内湖などの付属湖で構成され、河川法上は二級河川都田川に指定され、今切口で遠州灘と繋がり海水と真水が交わる汽水湖である。浜名湖の特徴としては最深部がマイナス15m、平均水深はマイナス5m、面積は70平方km、周囲114km、面積で比較すると全国で10番目の湖である。

なお、浜名湖は漁業法上においては海に位置づけられている。浜名湖内の漁協は、いくつかの漁協が存在していたが合併が進み現在は浜名漁業協同組合1つである。浜名湖では、アサリの他、ドウマンカニと呼ばれるノコギリガザミ、天然ウナギ、ウナギの稚魚であるシラスウナギ、コノシロ、サヨリ、マハゼ、ガザミ、スズキ、黒鯛など多くの魚種が漁獲対象となっている。ドウマンカニは浜名湖が生息域の北限となっている。令和4年の浜名湖全体における漁獲量は289トン、金額は8億1千9百万円となっている。

浜名湖周辺地域でウナギの養殖が盛んであるがその理由は

- ・地下水が豊富
- ・シラスウナギが多く採取される
- ・餌となったカイコのサナギが豊富であった等である。

最近の養殖ウナギの動向としては、従前200gから250gで出荷されていたものが、今は300gから350gまで大きくしてから出荷するケースが増えている。また牡蠣養殖も盛んに行なわれている。浜名湖分場の主な研究テーマの一つにアサリがあるが、湖内でも昔の漁場が消滅したり、採取量が大幅に減少するなどのいくつかの問題が生じている。アサリが最近減少した原因としてはアサリの成熟不良や浮遊幼生の湖外流出などに加え、黒鯛やキビレが捕食してしまうことが一因となっているため、食害が生じないように網で囲うことにより保護する取り組みが行なわれている。その他鈴木講師からは遠州灘と浜名湖の海水交換のシミュレーションなどについてもご講演いただいた。

講演2：「土に棲む微生物の世界と食糧生産・気候変動」

講師：静岡理科大学 齊藤明広 氏



現在、気象変動が顕著になっており、その情報は JA 静岡経済連が発行する営農支援だよりなどにも取り上げられるようになってきている。

地球の環境に変化（とくに人間の影響）が加わっても元の状態に戻り、地球環境が安定した状態を保てる限界をプラネタリーバウンダリーと呼び、地球の限界を脅かすさまざまな要因を科学的に分析し、一つの図に集約してわかりやすく示したものである。「生物圏の一体性」「気候変動」「新規化学物質」「成層圏オゾンの破壊」「大気エアゾルの負荷」「海洋酸性化」「生物地球化学的循環」「淡水変化」「土地利用変化」の 9 項目に区分されているが、今まで地球環境の全体像を理解することは容易ではなかったが、持続可能な限界を超えたかどうか注目することで、多様な課題を同じ軸にのせて、俯瞰（ふかん）的に判断できるようになったのは大きな成果である。

プラネタリーバウンダリーの 9 つの指標の内、生物地球化学的循環（窒素とリンのリサイクル）は、特にリスクが高まっている項目である。

土壌は地球にしか存在していない。月や火星には似たようなものが存在するが、あくまでも岩石の風化物でしかない。地球を覆う土壌は平均で 18cm しかない。19 世紀までは土壌は表面を覆う細かく砕かれた岩石からなる柔らかな物体程度の認識であった。土壌の研究は、土壌の良否により年貢高を公平に配分する必要に迫られて始まったものである。土壌の形成の過程などについてもご講演いただいたが、46 億年前に地球が誕生以来、20 億年前に酸素を生成する生物である海中緑藻類などが誕生し 6 億年前にはオゾン層の生成や生物の上陸が始まり、この時に初期土壌が形成された。この頃は酸素濃度が 2% 程度であったが 4 億年前には 21% まで酸素濃度が上昇した。3 億年前にはシダ、ソテツが繁茂し、本格的に土壌が生成され、6 千年前から農耕が始まり拡大していった。

土壌の役割は、植物を育み（生産機能）水を保持し（保水機能）、有機物を分解し（分解浄化機能）大気とのガス交換機能など多くの役割を担っている。またメソポタミア文明の栄枯盛衰は灌漑工事により農業生産性が向上した反面、灌漑設備の不備により排水不良などにより生育不良が起こり衰退に繋がった。エジプト文明についてもナイル川の氾濫により肥沃な土壌が形成され農業生産が盛んになった反面ピラミッドの建設により大量の木材を確保するため森林の伐採により保水性が低下し、有機物量の著しい低下が砂漠化に繋がり文明も衰退していった。このようなことが繰り返しおきたにも関わらず、これらの真実に何も学んでいないのではないかなど土壌と人間の関わりについて多くの事例をあげられご講演いただいた。

3. 謝辞

普段から魚や貝などは、食の対象として接しているにも関わらず魚や海藻などについて深い知識を有していないため大変興味深く拝聴させていただきました。

また、土壌を持つ意味や文明の栄枯盛衰にどのように影響を与えてきたのかの講義についても大変興味深い内容で、あっという間に時間が過ぎていきました。

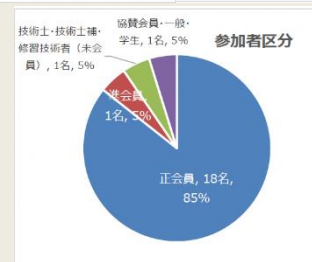
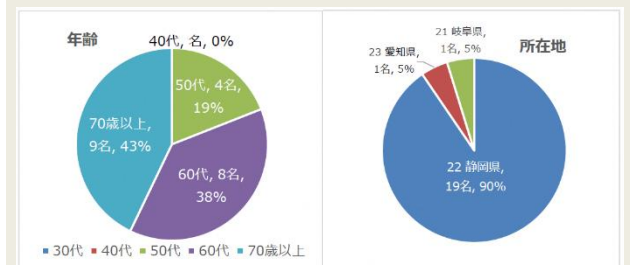
貴重な休日の時間を割いていただき熱心にご講演いただいたお二人の講師の方々に紙面をお借りしこころより謝意を申し上げます。

(岩田良明 記)

＜第 5 回例会参加情報＞

アンケート集計条件（講演会実施日：2024 年 12 月 7 日）

アンケート回収方法：	Google フォームを活用した Web 経由による回収
アンケート回収期間：	2024 年 12 月 8 日から 12 月 17 日（10 日間）
アンケート回収件数：	21 名（重複回答を除く）
アンケート回収率：	72 %（講演会参加者 29 名）



CPD 例会の実績と今後の予定

■ 2024 年度 CPD 例会実績

名 称	月・日	内 容
支部年次大会 第 1 回記念講演	2024 年 6 月 3 日(土)	記念講演 「大規模災害時の専門士業の社会的役割」 中央法律事務所 弁護士 永野 海 氏
第 2 回例会	2024 年 8 月 17 日(土)	テーマ「気候変動対策に貢献するエネルギー技術」 講演 1 「量産 EV 発売から 15 年。EV の現在地」 株式会社モズラボ 代表取締役(元明電舎) 森田 一徳 氏 講演 2 「静岡県の地層と新エネルギー」 静岡大学グリーン科学技術研究所 教授 木村 浩之 氏
第 3 回例会	2024 年 10 月 12 日 (土)	テーマ「命を守り社会経済を支える土木技術」 講演 1 「持続可能な自然環境と社会を創造するための技術」 東海大学名誉教授 田中 博通 氏 講演 2 静岡県内の河川事業インフラ整備と今後の展開 市川土木株式会社 土木部参事 佐々木 元 氏
第 4 回例会 (見学会)	2024 年 11 月 6 日(土)	見学会「株式会社明電舎 沼津事業所」 技術研修センター「Manabi-ya」および「GX 特高」見学
第 5 回例会	2024 年 12 月 7 日(土)	テーマ『身近な「水産資源と土壌微生物」の活用』 講演 1 「浜名湖の漁業・養殖業の概要とその研究について」 静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場/研究科長 鈴木 朋和 氏 講演 2 「土に棲む微生物の世界と食糧生産・気候変動」 静岡理工科大学理工学部物質生命科学科/教授 齋藤 明広 氏
第 6 回例会	2025 年 2 月 24 日(土)	テーマ 事例から学び・考え・伝え聴く「技術者倫理」 講演 1 「企業不正・不祥事から技術者倫理を考える」Ver 3 TSURU総合技術・安全コンサルタント事務所/所長 鶴田忠志 氏 講演 2 「価値観の真意をさぐる、事例紹介」 馬淵技術安全建築事務所/所長 馬淵大幾氏

※講演会ではCPD証明書を発行いたします。CPD時間：3.0h

◎2025年度活動について

- ・今後の講演会の希望・CPD例会運営については、2024年度の参加者アンケートを整理反映します。
- ・2025年度は年4回(8, 10, 12, 2月)のCPD例会と見学会を計画しております。

テクノロジーカフェの実績

■ 2024年度 テクノロジーカフェ実績

日 程	内 容
2024年4月20日（木）	「参加のまちづくりと理科授業の意義」 深澤陽子会員（建設、総合技術監理部門）
2024年6月15日（木）	「電気火災の発生原因とその予防策」 大嶽陽一会員（電気電子部門）
2024年8月17日（木）	「日本の食と新しい農業のやり方と私」 杉山武彦会員（応用理学部門）
2024年10月19日（木）	「長寿国、日本の食と健康～最新のトピックスを含めて～」 小川浩一会員（生物工学部門）
2023年12月18日（水）	「振り子の実験と応用例」 吉田建彦会員（機械工学、経営工学、総合技術監理部門）
2024年2月20日（木）	「水辺の街づくりと流出抑制の街づくり」 齋 強志会員（上下水道部門）

※テクノロジーカフェは、NPO法人静岡団塊創業塾主催の講座の一つとして開催されておりますが、その内容は、市民の方々に技術士の知名度を広めるため科学や技術の話題を分かりやすく紹介する公開講座で、技術士会の会員の経験した技術を発表する機会も合わせて提供しております。テクノロジーカフェは2か月に一回、年6回開催しておりますので皆様の参加をお待ちしております。

協賛会員のご紹介

当支部の様々な活動に協賛会員として協力いただいております会社・団体となります。

2025年3月現在 18社（敬称略）

会社名	役職	代表者氏名	住所
(株) 共和コンサルタント	代表取締役社長	杉本 洋	浜松市
(株) 建設コンサルタントセンター	代表取締役社長	小田 秀昭	静岡市
太洋電機 (株)	代表取締役社長	田中 茂	静岡市
(株) 日本地理コンサルタント	代表取締役社長	山田 巧	静岡市
(株) 東日	代表取締役社長	芹澤 秀樹	沼津市
(株) 中部総合コンサルタント	代表取締役社長	豊田 哲也	浜松市
吉田測量設計 (株)	代表取締役社長	石野 直之	浜松市
昭和設計 (株)	代表取締役社長	荒山 晃	静岡市
(株) 蓮池設計※	代表取締役社長	蓮池 康彦	浜松市
不二総合コンサルタント (株) ※	代表取締役社長	牧田 敏明	浜松市
(株) フジヤマ※	代表取締役社長	藤山 義修	浜松市
大鐘測量設計 (株)	代表取締役社長	塚本 好明	島田市
服部エンジニア (株) ※	代表取締役社長	服部 剛明	静岡市
静岡コンサルタント (株)	代表取締役社長	二村 繁靖	三島市
富士設計 (株)	代表取締役社長	小野寺 敦嗣	富士宮市
小林電気工業株式会社	代表取締役社長	小林 克也	沼津市
株式会社アースシフト	代表取締役社長	近藤 隆智	静岡市
(株) ウインディーネットワーク	代表取締役	杉本 憲一	下田市

※は2口加入の会員



浜岡原子力発電所の沖合には海水を取水するための取水口が設置されています。取水口までは海底内に設置されたトンネルで繋がっています。その取水用トンネルを掘削するのに使われた KMS5940 シールド掘進機の cutterヘッドと掘ったトンネルが崩れないように建て込む厚さ 25cm の SC セグメントです。浜岡原子力発電所の PR 館(浜岡原子力館)の入り口に展示されています。